

第7回 日経STOCKリーグ 表彰式＆記念シンポジウム

いま、なぜ金融・経済教育が求められているのか

日経STOCKリーグの表彰式に合わせて記念シンポジウムが、日経ホールで開催されました。教育の現場、経済の現場で活躍中の著名人を迎えて、経済教育やこれから日本の教育のありかたについて、熱気あふれる討議が行われました。

記念講演

「これでわかる！国際経済の見方～世界地図から見えてくるもの～」

池上 彰氏



例をもう一つ。イランの世界地図
イスラエルは存在していません。イラ
はそもそもイスラエルという国の存
を認めていない。だから地図にも存
しないのです。

地図は時代によつても違います。
つて台湾で使われていた世界地図で
台湾は「中華民国」の名で、モンゴル
までもその一部でした。でもモンゴルを
別の国ですからこの地図はフイクショ
です。八年前によつやくモンゴルを
記するようになりましたが、「中華
民共和国(中国)」はいまだに「中華
民国」のままで。一方、中国の世界地
図では「中華民国」は存在せず、台湾
台灣島となつています。

北方領土問題はどうなつてゐるの
中國の地図では北方四島は日本の
のとしています。反日感情の強い

方を考えてみましょう。一口に世界地図と言つてもさまざま違ひがあります。世界を見る鍵は、その違いの間にあります。何かを考えることになります。

まず、世界地図を思い浮かべてください。頭に描いた地図はたぶん、日本が中央、右手側にアメリカがあるものだと思います。でもこの地図を思い浮かべるのは私たちだけです。

地図は発行国などによって異なります。イギリスの世界地図では世界の中心はヨーロッパ。日本は東の外れです。イギリスはかつて植民地だったインドあたりを「東」とイメージします。イランやイラクのあたりを「中東」と言つるのは、東の途中にあるから、日本のあたりを「極東」と呼ぶのは東の外れという意識だからです。この地図を見れば、北朝鮮の核問題をめぐる六カ国協議のニュースなど、「極東」の大ニュースが欧米では小さな扱いであることも理解できます。既に核兵器らしきものが保有している北朝鮮と比較すれば、イランは初歩段階。にもかかわらずイランのニュースの扱いが大きいのは東の外れの出来事より近いイランのほうが気になるから。欧米人にとって北朝鮮の核問題はしょせん「極東」の出来事なのです。

国が、なぜ日本の主張を認めているの

パネルディスカッション

「金融・経済教育の現状と今後」

コーディネーター



パネリスト



三原 淳雄氏
(経済評論家)



藤沢 久美氏
(おとうめい)



海津 政信氏
(野村證券 経営役)



「日経STOCKリーグ」も回を重ね、今回で第七回になりました。まずレポートをお読みになつた感想をお聞かせください。

日経STOCKリーグのくわしい内容、受賞レポートの内容は、経済学習サイト [man@bow](http://manabow.com/)(学ぼう)でご覧いただけます。 <http://manabow.com/>

後援：文部科学省、金融庁、日本証券業協会、東京証券取引所、
全国公民科・社会科教育研究会、
財団法人 日本私学教育研究所、財団法人 全国商業高等学校協会

協賛・ITB